

製品名: CRMP-2 (リン酸化 Thr514) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04504**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	DPYSL2
別名	DPYSL2; CRMP2; ULIP2; Dihydropyrimidinase-related protein 2; DRP-2; Collapsin response mediator protein 2; CRMP-2; N2A3; Unc-33-like phosphoprotein 2; ULIP-2
遺伝子 ID	1808.0
SwissProt ID	Q16555
免疫原	抗血清は、Thr514 のリン酸化部位周辺のヒト DRP-2 由来の合成ペプチドに対して産生された。 アミノ酸範囲: 480-529

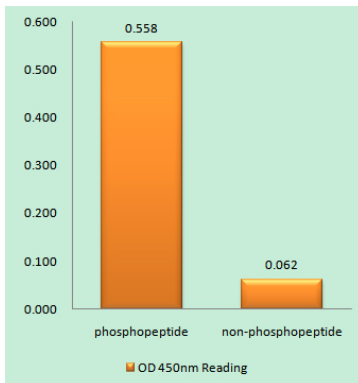
背景

この遺伝子は、コラプシン応答メディエータータンパク質ファミリーのメンバーをコードします。コラプシン応答メディエータータンパク質はホモおよびヘテロ四量体を形成し、ニューロンの誘導、成長、および極性を促進します。コードされているタンパク質は微小管の組み立てを促進し、Sema3A を介した成長円錐の崩壊に必須であり、カルシウムチャンネルとの相互作用を介してシナプスシグナル伝達にも関与しています。この遺伝子は複数の神経疾患に関与していることが示唆されており、コードされているタンパク質の過リン酸化はアルツハイマー病の発症に重要な役割を果たす可能性があります。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2011年9月]、機能: クラス3セマフォリンによるシグナル伝達とそれに続く細胞骨格のリモデリングに必要。軸索誘導、神経成長円錐の崩壊、細胞移動に関与する。、PTM:3F4 は、アルツハイマー病脳の神経原線維変化を強く染色するモノクローナル抗体であり、Ser-518、Ser-522、および Thr-509 がリン酸化されている DPYSL2 を特異的に標識する。、類似性:DHOase ファミリーに属する。ヒダントイナーゼ/ジヒドロピリミジナーゼサブファミリー。、サブユニット:CRMP1、DPYSL3、DPYSL4、または DPYSL5 とのホモ四量体、およびヘテロ四量体 (類似性による)。C末端を介して CYFIP1/SRA1 のC末端と相互作用する。HTR4 と相互作用する。、組織特異性:普遍的。、

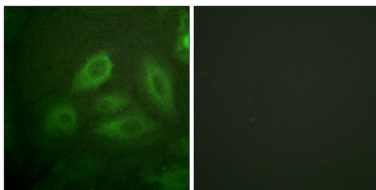
研究分野

軸索ガイダンス;

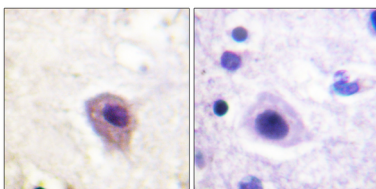
画像データ



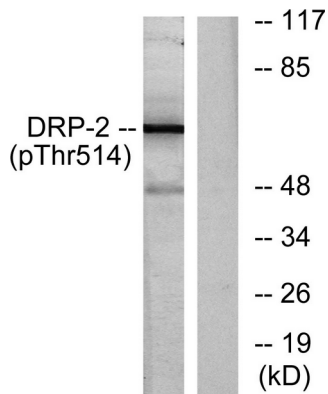
DRP-2 (リン酸化 Thr514) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



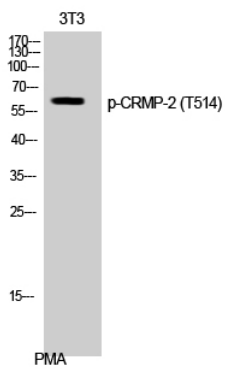
DRP-2 (リン酸化 Thr514) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



DRP-2 (リン酸化 Thr514) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



DRP-2 (リン酸化 Thr514) 抗体を用いた、PMA 125 ng/ml 30 分処理した NIH/3T3 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 CRMP-2 (T514) ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析